

第五回フオト旬会優秀作品(12月13日)

<自由題>



亀万年

たわし百円 俺晩年
中村 晃也



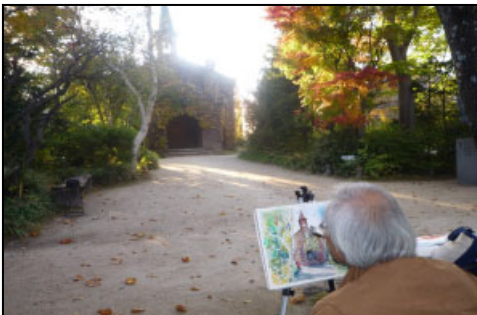
葡萄葉の

妖しき紅に酔いしれぬ
大越 浩平



働けり

往時茫々 暮の秋
濱田 優



覗き込む

芸術の秋 道遠し
田谷 英浩

<寸評>

中村さん：亀の子たわしと俺。人生の垢を擦り落としたい？

大越さん：葡萄の紅葉。酔いしれた妖しい紅とはワインか口紅か？含蓄のある句。

濱田さん：手前の落ち葉、壊れかけた荷車、その昔働き蜂であったわが身になぞらえているのでしょうか？

田谷さん：覗き込む習性は治らない。落葉と髪の毛でうら淋しい風情が出ている。

<句 付 け>

12月の
お題写真



待つ身には期待と不安が紙一重 上山 裕次

大半は似顔絵描きで終わる画家 中村 晃也

大道で獅子と天狗が鼻競べ 三 春

<寸 評>

お題写真が難しいという意見がありました。二句作ったがどちらを投句したら良いか判らないという意見もありました。来年度から二句投句ということにいたしましょう。

上山さん：自分の顔がどんな風にデフォルメされるのかの期待と不安感がよく判りますね。

中村さん：アルバイトの画学生の将来は？画家とモデルという訳には行きません。

三春さん：客のなかには獅子っ鼻や天狗鼻の人が多。画家はますますそれを誇張して描く。

写真提供者：「描かれてる子が我が子とは知るまいな」

次回のお題写真の提供は一席の上山さんをお願いしました。